



↑女性のみの編成チームも奮闘しました



↑レベルの高いプレーに歓声があがりました

暑さ吹き飛ばすはつらつプレー

長島の夏の恒例イベント、あづまCUP 2013ビーチバレー大会が7月28日、あづま海水浴場でありました。

町内はもとより、遠くは福岡県北九州市からの参加もあり、合計76チームが出場しました。応援に駆け付けた人も含め約350人のバレーボール愛好家が集い、砂上の熱戦を楽しみました。

開会式で川添健町長は「若い人たちがたくさん参加して嬉しい。若い人たちの交流が深まり、今後も長島町が発展するよう期待する」とあいさつ。磯永秀生長島町観光協会会長は「花の町として定着しつつある本町の沿道の花々も、ぜひ見て楽しんでほしい」と話しました。

大会は各グループごとに予選を行い、予選を勝ち上がった29チームでトーナメント戦を争いました。砂浜に足を取られ珍プレーも続出し、好プレーには、相手チームの応援団からも拍手が送られるなど、終始和やかな雰囲気で行われました。熱中症などが心配されましたが、選手たちは夏の暑さも吹き飛ばすほどのはつらつとしたプレーを見せてくれました。

優勝は鹿児島市から参加した「ヘルシア」チーム、準優勝は「球舞」チーム（鹿児島市）、3位「ダビンチ」チーム（出水市）でした。

出水市から参加した畦浦悟さんは「参加できるのを楽しみにしていた。来年も参加したい」と笑顔で話しました。

大会は各グループごとに予選を行い、予選を勝ち上がった29チームでトーナメント戦を争いました。砂浜に足を取られ珍プレーも続出し、好プレーには、相手チームの応援団からも拍手が送られるなど、終始和やかな雰囲気で行われました。熱中症などが心配されましたが、選手たちは夏の暑さも吹き飛ばすほどのはつらつとしたプレーを見せてくれました。

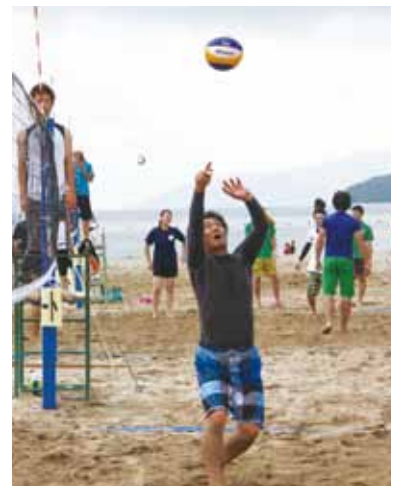
あづまCUP 2013



↑優勝を喜ぶヘルシアチーム



↑体育協会員らが審判などの運営に携わりました



↑砂に足をとられても、正確なトスをあげていました